風疹抗体測定は HIA 法で行っています

首都圏での風疹の大流行に伴い、当院へも風疹抗体価測定の問い合わせの電話をいただいております。現在、当院では風疹の抗体価測定は赤血球凝集抑制試験（hemagglutination inhibition test：HI 法）で行っており、抗体価測定のみなら２１００円で行っています。

風疹の抗体価測定には赤血球凝集抑制試験（HI 法）、酵素抗体法（enzyme immunoassay：EIA 法）、ラテックス免疫比濁法（latex turbidimetric immunoassay : LTI 法）などの方法があります。一般に EIA 法のほうが HI 法に比較してより正確である反面、高価である欠点があります。しかし、風疹抗体価測定では HI 法の感度が EIA 法と同等といえるほど良好であったため、これまでは HI 法で行われることが一般的であり、風疹ワクチンを接種する抗体価の目安など、免疫状態の評価は HI 価が基準にされていました。しかし、近年の風疹の大流行に伴い HI 法の試験試薬(ガチョウの血球)が日本中で品薄になり、仕方なく EIA 法で測定しておりましたが、また HI 法での測定が可能になりました。

HI 法で１：８という結果は一応陽性の判定になりますが、１：１６以下の場合はワクチン接種が勧められています[1)]。これは、血清の前処理においてインピーダンスを除去しきれないことによって抗体陰性のものが 8 倍に誤判定されることがあること、また、2 倍程度の検査誤差がありうることによるとされております。また、抗体価が境界陽性のひとはワクチンを接種してさらに免疫を強化しておくという意味もあります。

さて、６月１４日、厚生労働省は、風疹の大流行により今夏以降に一時的にワクチンが不足する恐れがあるとして、妊婦の同居家族や妊娠を希望する女性などが優先してワクチン接種を受けられるよう協力を呼び掛けました。風疹のワクチンは、多くがはしかと混合した MR ワクチンとして供給されていますが、MR ワクチンも不足する恐れがでてきました。そこで、ワクチンを安定して供給できる体制が整うまでは、任意の予防接種については、妊婦の夫などの同居家族や周囲の人、10 歳代後半から 40 歳代の女性などを優先するよう協力を呼びかけました。

当院では、抗体価を測定せずにワクチン接種をする選択もあることを受診者に説明してきましたが、ワクチン不足の現在ではやはり抗体価を測定して、１：１６以下のひとに限って接種をするのが正しい方法かもしれません。

平成２５年６月２０日

参考文献

1）岡部 信彦ら ： 予防接種に関するＱ＆Ａ集 . 第１２版, 細菌製剤協会, 東京, 2012：85 - 109 .